

## 松本医院開院以来、受診されている膠原病の手記。

### 「松本先生に感謝の30年（慢性炎症治癒）」

匿名希望 70歳

2017年4月5日

松本先生にお世話になって、かれこれ30年になる、と言うか、松本先生が開院されて今春で確か30年になると思うので、初期からの患者という事になる。30年間絶え間なく通っていたわけではなく、折々の疾病が良化に伴い通院休止期間も当然あったが、今に至るまで新たな疾病の都度お世話になっている。特に今は通院に半日程度要する遠方のため頻度は減ったが、それでも直に問診を仰げる機会を大切にしているので、1日ばかりで行くことにしている。

きっかけは若年時（10代後半）より諸々の炎症疾患に悩まされ、その都度、消炎鎮痛剤など服用していたが、多少の緩和は出来ても根本治癒は望めず苦みの日々だった。

20年以上苦しみ悩みながら仕事盛りの40歳の時に、ある所で紹介を受けたのが開院間近の松本先生だった。先生は名門医科大学で西洋医学を修めながらも、傍ら東洋医学を長年研究され、その効能を広く臨床に役立てたいと漢方専門医院として現在地に開院されたように記憶している。

20年来悩んだ当時の主な症状は、手足関節の痛みや腫れ。特に朝方が酷く、指のこわばり、痛みが辛いものだった。指関節が多少変形し、左右が少し違ったり、蜂に刺されたように赤く太く腫れたような状態となったこともあった。時には、腰が重くだるい感じになったり、あるいは首が重く強張って運転時、左右確認しづらい不自由な事もあった。殆ど全身と言っていいぐらい様々な部位の炎症に悩まされた。いわゆるリウマチ性症状が消えることはなかった。度々の口内炎にも苦しんだし、目の炎症を併発したこともあった。これらはリウマチ性疾患、膠原病質と言われ、整形外科等で対症療法的に飲み薬や局部注射で鎮痛を緩和するのが精一杯だった。他に皮膚炎症も季節の変化で時折アトピー症状となり、赤く発疹や痒みに悩む時期もあった。

30年前は漢方に関する深い知識もなく、単に新たな処方を試して少しでも良くなりたいとの一途な思いで通院し始めた心境だったと思う。通い始め当初1年位は、まじめに徹底的に漢方薬（煎じ薬）を服用した記憶がある。仕事場へも煎じ薬を持参し、毎日3回規則正しく服用続けた事を覚えている。手間が掛かったが2番煎じ薬も作り、少しでも良くなりたい一心でお茶代わりに飲んだ

ことも覚えている。当時の細かな日々の変化は定かでないが、服用1年程で随分症状が和らぎ、その後徐々に快方に向かい気が付けば随分体が軽く、2年後には殆ど痛みなどから解放され健康に自信が持てたことを思い出す。40～50代の会社生活の大事な時期を寝込むこともなく乗り越えられたのは、本当に先生の漢方のお陰と思っている。

当初の疾患は殆ど完治に至った後、数年通院しなかった時期もあったが、それでも加齢に伴い体質変化や日々のストレス、体調不良時などは、若年時とは違う症状や部位の変調を感じる事があり、多少とも変調を感じる事があれば早めに受診し、数ヶ月の服用を目途に断続的に通っている。50肩で肩が痛み、腕が上がらず困った時も短期間で見事に治った事を覚えている。

最近では、顎痛を発症し、口を大きく開けられず食事も不自由となったが、2ヶ月程で軽快し4ヶ月で全快となった。若年時なかった乾癬も煎じ薬により治まっている。30年間振り返って漢方薬の効能を実感するのは、偏に「免疫力の回復向上」そのものと受け取っている。門外漢で漢方と生体の働きなど分からないが、要は「漢方で自然治癒力を促す」と単純に理解している。免疫とは、「体内に侵入した病原体を排除し、病気の発症を免れる働き」と書いてあるが、英語では「immunity(イミュニティ)」と言い、訳の一つに「妨害排除能力」という解釈もあるらしい。免疫力向上こそが健康の基礎であることを強く実感している。素人判断で小さいことではあるが、個人的に数年来風邪ひき無し、快食快眠快便の日々である。

ホームページには数多くの松本先生の論文や患者の手記が投稿されており、これまで読み続けてきた。気になるテーマがあればじっくり読み通し、どれも参考になるものばかりであり、特に先生の追記コメントは、なるほどと納得し、より理解が深まる。

文章力に自信がなくこれまで投稿を遠慮していたが、元気に70代を迎えた区切りに30年の回顧として今回拙い文章を綴ることにした。何より先生との出会い、縁が自分にとって大きな幸運であったし、いつの受診でも「治してやるぞ」の熱情や気迫に勇気づけられ精神的良薬になっている。今後も先生の「免疫漢方」が広く周知され、悩める患者が救われることを願うと同時に、72歳になられた先生のご自愛を切に祈り感謝の一文としたい。